

ディズアビリティ・インクルージョンと 言語文化教育

2022 3.5-6

場所 オンライン開催
 参加・申込情報 <http://alce.jp/annual/2021/>
 参加費 会員2,000円 | 非会員4,000円
 お問い合わせ annual@alce.jp (年次大会委員会)

大会シンポジウム 3.5(土) 13:30-16:30 予定
 タイトル 流暢な音声日本語話者像を超えて
 シンポジスト 松崎丈(宮城教育大学), 岡典栄(明晴学園), 中井好男(大阪大学)
 司会 古屋憲章(山梨学院大学)

招待講演 3.5(土) 11:15-12:45 予定
 タイトル 宮窪手話を通して異文化共生を考える
 講師 矢野羽衣子(関西学院大学手話言語研究センター)

委員企画フォーラム 3.6(日) 15:40-17:10 予定
 タイトル 言語文化教育は、ろうコミュニティの「ALLY」になれるのか～日本語教育とやさしい日本語の視点から～
 鼎談 吉開章(電通ダイバーシティ・ラボ), 中島武史(大阪府立だいせん聴覚高等支援学校、関西学院大学手話言語研究センター), 中井好男(大阪大学)
 モデレーター 古屋憲章(山梨学院大学)

言語文化教育 ディスアビリティ・インクルージョンと

テーマ趣旨

日本社会における多文化共生が語られるとき、その焦点はグローバル化に伴って外からやってくる文化に当てられ、従来から国内に存在する文化は見過ごされてきました。そして、日本の言語政策では、日本手話といった国内少数言語を学習する機会が、言語的マジョリティはさることながら言語的マイノリティに対してもほとんど保障されておらず、言語的ディスアビリティは社会的に作られている側面があると言えます。特に聴覚障害者については、独自の言語や文化を持ちながら言語文化教育から取り残されており、当事者による問題提起によってようやく取り上げられるようになったというのが現状です。

そこで、第8回大会では、聴覚障害者の社会活動や社会参加を妨げてきたイデオロギーや言語政策などを取り上げ、本来あるべき多文化共生の実現に向けて、ディスアビリティとは何か、また、ディスアビリティ・インクルージョンのために言語文化教育に何ができるのか議論することを目指します。

(企画委員: 杉本篤史, 古屋憲章, 宮本敬太, 中井好男)

参加者募集

会場	オンライン開催
参加・申込情報	http://alce.jp/annual/2021/
参加費	会員2,000円 非会員4,000円
お問い合わせ	annual@alce.jp(年次大会委員会)

3.5 | 土 |

大会シンポジウム	『流暢な音声日本語話者像を超えて』
開催	13:30~16:30 予定
シンポジスト	松崎丈(宮城教育大学), 岡典栄(明晴学園) 中井好男(大阪大学)
司会	古屋憲章(山梨学院大学)
招待講演	『宮窪手話を通して異文化共生を考える』
開催	11:15~12:45 予定
講師	矢野羽衣子(関西学院大学手話言語研究センター)
ワークショップ	「無言語コミュニケーション体験」 「日本手話・ろう文化についての体験講座」

3.6 | 日 |

委員企画フォーラム	『言語文化教育は、ろうコミュニティの「ALLY」になれるのか——日本語教育とやさしい日本語の視点から』
開催	15:40~17:10 予定
鼎談者	吉開章(電通ダイバーシティ・ラボ), 中島武史(大阪府立だいせん聴覚高等支援学校, 関西学院大学手話言語研究センター), 中井好男(大阪大学)
モデレーター	古屋憲章(山梨学院大学)